view of Exeter" 等好例である。しかしかゝる色調は直に濃暗豐富なる黃金强ちのブラオンと成來つた。一七九七年一七九八年及一七九九年に於てローヤルアカデミー展覽會に大幅の大作品數點を出陳した。何れも氏が進境の著しきを示して居る。

Salisbury Cathedral の八景、Crypt of Kirkstal Abbey' Warkworth, Norham Castle 等皆優麗なるもので、ターナーの伎倆に一新發程を畫せるものである。氏はその成功せるは實にNorham Castleの好風景に負ふ處甚大であるといふて居つたといふことである。これより三十年の後、スコットの挿畫を描いた頃、アボッツフォルドのサーウォータの客となつたが、出版者ギヤデルと共にトウードサイドを散策せる折に、ノールハムを通過したとき、ターナーは自ら帽を脫して一禮した。其故如何と問ふと、氏は「かの畫は予をして成功せしめたものである」といふたとある。恐らくは氏が一七九九年ローヤルアカデミー員に擧げられたのはこの畫の出陳に負ふ處があつたと思ふたのであらう。（ダフリュー・デー・ローリンソン稿）

畫家バーデ、ハリソン氏の話

芋洗生撰

○畫かきが、どんな材料を使つて、畫をかくかは、全く、畫かき名々の性情（たち）の問題であつて、一概に極めることは、出來ぬ。これは、畫かきが、名々、自分で研究して、自分に、一番同情ある材料を、撰ばねばならん。

○昔から、畫を描くに、種ろ〳〵な材料が使はれたが、今、實際行はれて居るのは、パステルと水彩と、油繪具、の三つに過ぎない。此三つの方法、材料には、それ〴〵、長所もあるし、又た、短所もある。

○水彩は、パステル程、甘味が多くない。が材料の弱點も、パステルよりは尠ない。パステルの一番の缺點は、耐久力の薄弱なことであつて、此點に於て、水彩繪具の確かなことは、ラハアエル、或は、レオナルドの下畫を見ても解る。

○それに、晴れ〻〻とした、新鮮な感じと、輕快な、微妙な心ろ持では如何な繪具でも、倒底、水彩畫には叶はん。

○長所即ち短所である。水彩材料の短所は畫かきが、繪の具を施した後で、どんな調子に、乾き上がるかゞ、容易に前知出來ぬことであつて、此材料には、不確と云ふ分子が、瞬時も去らない。

○併し、此不確しか、漠然とした性質が、水彩畫の、重な妙味である。

○それに、水彩材料の便利な處は、比較的、明かるい工合を描く時と、餘り面積の大きくない畫を描く時であつて、調子の低い畫や、面積の大きな畫には、材料が輕る過ぎて、それに肝心な、深みと、力らが足りない。

○水彩繪具には、鉛の分子が這入つて居ないから、殆ど、どんな色を使つても、化學作用の爲に、變色することもなく、又た後になつて、變ると云ふことも、殆どない。安心して使かへる。

裝飾的の昆蟲

織田一磨

佛蘭西の圖案家Vernvil.氏は昆蟲美に就て多大の趣味を持つて居るとみえて氏の圖案には昆蟲の各種が實に巧みに應用せられてある、氏の著『L'Animal Dans la Decoration』の内にも種々あるが、其れより氏の圖案の尤も面白い作品の掲載せられてあるのは美術圖案雜誌Art et Decoration.の方にかへつて出て居る、氏の他にも昆蟲を圖案化して用ゐつゝある作家は可成り少なくないやうだ、然るに悲しいかな我國の圖案界の現狀では未だだれ一人として眞に昆蟲美を賞贊して美術工藝品の圖案に應用を試る人もない、わずか三越吳服店や其他で蝶類の模樣を附けた友染を賣り出しては居るが其れとても相不變德川末の空想的な物で蝶であるか蛾であるか特徴を無視した結果區別が付兼る樣な圖ばかりである。私が思ふのは眞實で居て愚な物でなく巧に圖案化されたる模樣を望むので、やはり其蟲の特徴とか色彩斑紋の特徴は圖案化の場合にも失なはずに保存したいと思ふのである、毎度言ふ事であるが推古時代の遺品中には此點が